

**政治・経済**

日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2月7日	I	基本的人権と日本の政治	標準
	II	地方自治、国民の政治参加	標準
	III	日本経済の動向、市場経済	やや難
2月8日	I	日本の政治機構、平和への取り組み	標準
	II	日本の財政・金融政策、経済の諸課題	やや難
	III	現代の企業、国際経済の動向	やや難
2月9日	I	国際社会における平和と安全保障	やや難
	II	国際経済、経済の諸課題	標準
	III	現代の企業、消費者問題	標準

**<出題傾向>**

いずれの日程も、大問3題、マーク数37～38の多肢選択問題で構成されている。今年度の出題分野を見ると、2月7日は政治分野、2月8日と9日は経済分野に比重が置かれていた。高等学校「政治・経済」の全分野からまんべんなく出題されているが、特に日本経済や国際経済に関する出題が多くなっている。

出題形式の中心は正誤問題であり、多くは4択、一部に正誤の組合せ形式が見られる。4択の正誤問題は、政治や経済の仕組み、政策や制度などの内容を問うものであるが、語句の定義について判断するものも出題されている。また、近年の政治・経済の動向について時事的要素を含む判断も問われている。そのほか、語句選択問題や年代並べ替え問題も出題されている。経済分野においては、グラフや表を用いた統計の読み取り問題も一部の日程で見られ、今年度は家計の所得状況を示した表、日本の貿易品目構成のグラフが出題された。いずれの表・グラフも、共通テストで見られるような複数の資料を横断的に読み取るものではなく、日頃から表やグラフなどの統計資料に触れていれば正しく読み取ることが可能なものである。

難易度は、おおむね教科書に準じた標準レベルであるが、やや難レベルの設定も見られる。問題数は決して多くはなく、リード文も長いものでも1ページ以内に収まる量であるが、正誤問題の出題が多いことから、各選択肢を精査する時間が必要であり時間配分には注意が必要である。

**<学習対策>**

【学習の基本は教科書の精読】 問題の大部分は、教科書に記載のある内容から出題されており、教科書の各単元を精読することが学習の基本といえる。また、教科書にあるコラムや、欄外の脚注、表やグラフなどにも必ず目を通し、わからない語句があれば用語集を用いてその定義を整理しておくことで理解が深まる。<出題傾向>でも述べたが、多くが正誤判定問題であるので、法規や政策、制度などの内容を正確に理解することが必要とされる。そのためには、「なぜこのような政

策・制度になっているのか」という視点を常に持ちながら学習を進めることが重要である。

【ニュースをチェックすることで理解が深まる】 時事問題の出題もいくつか見られることから、時事的内容に普段から触れておくことは、正答率を高めるということ以上に、教科書で学習した内容のアウトプットとしての効果も期待できる。教科書で学習した政策や制度などが、実際にどのように運用されているかを知ることで理解が深まり、記憶にも定着しやすい。新聞やニュースに目を通す習慣がない受験生は、新聞社のニュースサイトの見出しに目を通すだけでも、時事的内容への興味・関心を高めることができるので、ぜひ取り組んでもらいたい。

【政治分野の学習のポイント】 日本の政治分野の学習を進める上で、日本国憲法の条文を確認することは必須である。憲法で規定された基本的人権に関する判例、政治機構のしくみと権限、憲法改正に関する手続きなどは、憲法の規定を把握していることを前提に出題される。教科書の各単元には、関連する条文番号が一覧になっている表や、説明の中に該当の条文番号が記されているものが多いので、それらはすべて憲法の条文を確認するようにしたい。

国際政治の動向については、冷戦期とその後の状況、国連の機関やその役割などをまとめておきたい。また、各地で続いている戦争や内戦、民族問題などについては、教科書で学んだ内容と関連させながら、ニュースや新聞などで最新の状況を確認するとよいだろう。

【経済分野の学習のポイント】 経済分野は、単なる暗記にとどまらず、事象の因果関係を説明できるようになることを目標として学習を進めてほしい。たとえば、今年度の2月7日・問題III・問2で出題された需要・供給曲線の移動であれば、各曲線の移動方向を覚えるだけでなく、なぜそのような移動になるのか、その理由を説明できるように理解しておくことが重要である。また、2月9日・問題II・問5で出題された機会費用の計算のように、その意味を理解したうえで簡単な計算が必要となる問題もある。このような計算問題については、共通テストの過去問などを活用して慣れておくことが重要であり、苦手意識をもたないように演習を重ねてほしい。

経済分野では、表やグラフなどを用いた統計の読み取り問題も出題されている。複雑な読み取りが必要とされるわけではないが、普段から教科書に掲載された表やグラフなどで、統計の読み取りに慣れていってほしい。その際には、学習した内容がどのように統計に表れているのか、意識しながら読み取っていくとよいだろう。また、統計資料は毎年数値が変わるが、大きな数値の変更があった場合は、その理由も含めて確認しておきたい。ただ、基本的にはおおまかな数値の傾向を理解しておくことが重要であるので、細かな数値まで覚えておく必要はない。統計の読み取り問題の演習には、共通テストの過去問を活用することが効果的であるので、ぜひ取り組んでもらいたい。

以上